別府市が優秀賞受賞

「webグランプリ」で

企業における見本とすべきウェブサイトを表彰する第12回「Webグランプリ」の企業グランプリ部門で、大分県別府市の公式観光情報ウェブサイト「別府たび」が「企業BtoCサイト賞優秀賞」をこのほど受賞した。自治体の受賞は珍しいという。

同グランプリは、デジタル社会の発展に貢献した人とサイトを表彰するもので、340社が加盟する公益社団法人日本アドバタイザーズ協会デジタルマーケティング研究機構が主催。

「Web人部門」と「企業グランプリ部門」に分かれ、今回別府市のサイトは企業グランプリ部門で選出された。73社、84サイトが参加した中から、審査委員282人の審査により「各企業のウェブ担当者同士の研さんにより制作・構築された、見本とすべきウェブサイト」を選んだ。

受賞した「別府たび」は、同市の観光サイト「極楽地獄別府」をリニューアルしたもので、2023年2月17日に公開。同市が目指す持続可能な観光地づくりの達成に向けて「視覚的デザインの構成に注力した『ウェブサイトの上質化』」「さまざまなメディアと連携した『別府市デジタルマーケティング戦略の基礎』」「PDCAサイクルの確立による『更新の重要性』」という三つのコンセプトを設定し、制作した。

企画開始の段階から別府市観光課、同市観光協会、同市旅館ホテル組合連合会、市内大学生などで組織するサイトの編集部で構成や内容について協議を重ねてきた。

サイトのリニューアル後、23年度はリニューアル前比で259%、24年度は同約336%（予測値）とアクセス数が大幅に増えている。同市は「数字だけでない評価も頂き、今後さらに戦略的な情報発信に取り組む」と話す。

贈賞式が12月5日、東京都内で開催された＝写真。

3月から「花フェスタ」

浜松・浜名湖

宣伝隊が本社訪問

3月20日から6月8日まで、静岡県浜松市と周辺地域で行われる「浜名湖花フェスタ2025」の宣伝隊が12月19日、東京の観光経済新聞社を訪問した。

浜松・浜名湖観光アンバサダーのしらいさん（右）と夏川さん

訪れたのは浜松・浜名湖ツーリズムビューロー事業部企画課の横島小百合主幹、浜松・浜名湖観光アンバサダーのしらいふうなさんと夏川あきらさん、静岡県観光協会東京観光営業所の目黒はるみ主査。

浜名湖花フェスタは、浜名湖周辺の5市1町（浜松市、湖西市、磐田市、袋井市、掛川市、森町）をエリアに、花や植物をテーマにしたさまざまな展示やアクティビティを行い、来場者にエリア内を周遊してもらおうというもの。はままつフラワーパーク（浜松市）、浜名湖ガーデンパーク（同）などイベントの構成施設でチューリップ、ネモフィラ、あじさいなど、季節が進むにつれて変わりゆくさまざまな花の景色を楽しんでもらう。

イベント構成施設やエリア内の飲食店、観光施設に立ち寄り、スタンプを集めるとプレゼント抽選に参加できる「花フェスタスタンプラリー」を実施。従来の紙からスマートフォンを使うデジタルスタンプラリーに方式を変更した。静岡県の公式観光アプリ「TIPS」を利用して参加してもらう。スタンプラリーページを見せると協賛施設で割引などの特典が受けられる「おもてなしクーポン」事業も行う。

「はままつフラワーパークのローズガーデンと龍潭寺（りょうたんじ＝浜松市）のあじさい、浜松城の桜がきれい。消費量全国1位の浜松のハンバーグも味わってほしい」（夏川さん）。

「浜名湖ガーデンパークはネモフィラの時期がおすすめ。青空と花のじゅうたんのコントラストが美しいです。3月に漁が解禁になる生のシラスも味わってください」（しらいさん）。

広島・宮島・呉・岩国

冬イベントなどPR

広島県広島市、廿日市市（宮島）、呉市と山口県岩国市の観光宣伝隊が12月4日、東京の観光経済新聞社を訪問。冬のイベントなど各地の最新情報を伝えた。

訪れたのは宮島観光協会の平田裕二副会長（岩惣社長）、野島友和副会長（宮島シーサイドホテル）、岩国市観光協会鵜飼事務所の三井麻衣子さんと、広島観光親善大使の高間美緒さん、宮島観光親善大使の城山巧さん、ミス岩国のサプコタ・カリシマさん。

広島市は冬恒例のイルミネーションイベント「ひろしまドリミネーション」が1月3日までの期間、同市中心部の平和大通りなどで開催。「おとぎの国」をテーマに、街中を色とりどりにライトアップしている。カキを中心に、瀬戸内の「七大海の幸」を使った料理を市内店舗で提供するとともに、スタンプラリーを楽しんでもらう「瀬戸内かき海鮮食堂」も2月28日までの期間、開催する。

宮島は秋の紅葉に続き、白く奇麗な花を咲かせて「町の花」ともなっているアセビの鑑賞を2月から4月にかけて楽しめる。2024年の来島者は過去最高だった19年の465万人を上回る見通しだ。フランスのモンサンミッシェル市と観光友好都市提携を行っており、その15周年記念式典が6月に廿日市市で行われた。

岩国は市のシンボルの錦帯橋に加えて、地元に生息し、数々の伝説が伝わる白蛇を鑑賞できる「岩國白蛇神社」「岩国シロヘビの館」が25年の巳（み）年に話題になりそう。12月13日に開港12周年を迎えた岩国錦帯橋空港は、東京・羽田間に1日5往復、沖縄・那覇間に同1往復、航空便が就航。市内へのアクセスが整備されている。

呉は海事歴史科学館（大和ミュージアム）が25年2月中旬から26年3月末までリニューアル工事で休館するのに伴い、JR呉駅近くにサテライト施設を設けて展示を行う。

親善大使らがそれぞれの一押しをアピールした。

「縮景園は四季折々の自然が楽しめて心が癒やされる」（高間さん）、「焼きたてのもみじまんじゅうが好き。大きく育ったカキもミルキーでおいしい」（城山さん）。ネパール出身で英語など4カ国語が話せるというサプコタさんは、英語の学びや国際交流ができる「岩国市英語交流センター」を紹介。「カフェだけの利用もできるのでお気軽にお越しください」。

「大谷石」テーマにシンポジウム開催

宇都宮共和大

宇都宮共和大学都市経済研究センター（宇都宮市）は2月7日、大谷石文化の価値と地域振興の可能性を探るシンポジウム「『大谷石文化』の魅力発信を考える―フランク・ロイド・ライトがとちぎに残したもの―」を同学で開催する。

宇都宮市の歴史文化資源である「大谷石文化」は、採掘技術や石を活用した建築技術が日本国内で独自の発展を遂げ、2018年には日本遺産に認定された。特に近代建築三巨匠の1人、フランク・ロイド・ライトが大正時代に設計した「旧帝国ホテル本館・ライト館」（同市）は、日本の建築近代化に大きな影響を与え、世界的にも高い評価を受けている。

シンポジウムでは、大谷石文化を広く発信し、地域振興を図る取り組みを、識者を交えながら一緒に考える。

プログラムは2部制で、第1部は兵庫県立大学環境人間学部教授で建築史家の水上優氏、宇都宮市公認大谷石大使の榊田倫之氏が「フランク・ロイド・ライトがとちぎに残したもの」と題して基調講演を行う。第2部は、栃木県文化協会会長の中津正修氏ら3氏によるパネルディスカッションを予定している。

参加費は1人千円で、定員150人（先着順）。専用フォーム＝QRコード＝またはメール reenter@kyowa-u.ac.jp から申し込みを受け付けている。

台湾・台南市に協会職員を派遣

みなかみ町観光協会

群馬県のみなかみ町観光協会（岡村建会長）は、友好協定を結ぶ台湾・台南市との関係を強化するため、11月5日から20日まで、協会職員を派遣した。派遣先は市旅行商業同業公会で、入職3年目の村上貴哉さんが事務所にデスクを構え、「大台南国際旅展」の準備などの業務にあたった。

岡村会長は「短期間だが、町と台南市のより深い理解と強固な信頼関係を築く貴重な機会になった」、阿部賢一町長は「村上さんの勇気と意欲に感銘を受けた。貴重な機会を最大限生かし、自信をもって前に進んでほしい。受け入れてくれた皆さんに感謝したい」とコメントしている。

地域観光

体験型観光が日本を変える

〈379〉

体験教育企画社長　藤澤　安良

2024年の元日には能登半島地震が起こり、甚大な被害が出た。激動の年になりそうな始まりであった。

ロシアのウクライナ侵攻は間もなく3年が経過する。イスラエルのガザ地区侵攻も収束せず、隣国の韓国では大統領が厳戒令を出し、すぐに取り消されたものの混乱が続いている。

平和産業である観光は世界の世情が不安定であり、さらに円安となれば海外には足が向かない。インバウンドは世情が比較的安定している日本。日本人にとっての物価高も円安で打ち消され、おつりがくるぐらいである。食事も物産もリーズナブルに感じているという。

最近の日本の清酒や焼酎や泡盛が過去の和食と同じ無形文化遺産に指定された。それも追い風になる。19年のインバウンド318万9千人を上回り、史上最高を記録すると思われる。一方で、電気・ガス・水道等の公共料金やガソリン代と食料品等の物価高は社会生活に大きな影響を及ぼしている。

25年は地方を大切にする年に

大企業の賃上げは進んだ。しかし、日本の7割に及ぶ中小企業では浸透せず。インバウンドに引っ張られた宿泊や飲食などの値上がりもあり、日本人の国内旅行は伸び悩んでいる。

観光地や宿泊施設側から見ても三大都市圏や福岡市、ニセコや白馬、TDLやUSJなどのインバウンドが集中している以外の地方は行楽シーズンが外れると集客が激減することになる。つまりは、ウインタースポーツ以外の旅の目的提案が乏しい。

観光業界半世紀の経験があるが、この事情は今も変わらないまま今日を迎えている。観光の平準化と安定を求めると、スキー場はグリーン期、そうでない地域は冬季のコンテンツ開発が不可欠である。

テレビのロケも地方への旅番組が多く、風景は定番だが食事にスポットが当たっている。さらには、その食材の生産地である1次産業に結びつき、それを生業としている人がいる。

旅の感動を呼ぶ資源素材はいろいろあるが今求められるのは体験交流プログラムである。人に会い、人から話を聞き、その人のやっている生業を体験し、わずかな時間であっても、その人と同じ境遇に身を置くことにより、その人の生き様や誇りが心を揺り動かしてくれる。

心動かし心高める旅により、人々の心に豊かさを与えることが日本社会を変えることになる。

昨年の年末まで強盗、窃盗、殺人、詐欺、放火、無謀な運転による交通事故と残念な犯罪が相次いだ。人を傷つけ、おとしめ、だまし、殺傷する人としてあるまじき行為が横行している。貧困格差も原因の一つであると思われるが、人を思う気持ちの醸成が不可欠であり、教育や人づくりが求められている。

それについても、感動が薄い机上学問では及ばない。つまりは、体験交流である。課題山積の日本、25年は地方創生への期待も膨らむ。結果が生まれるよう日本の田舎をもっと応援すべきである。地方が豊かになり、人の心が豊かになり、日本が豊かになるよう、政府も地方自治体も観光業界も地方を大切にする年にしたいものである。

本社を訪れた観光宣伝隊の一行

「羽二重」のふるさと・福井（福井県）

冬こそ、ひやり「水羊かん」

ひやりつるり冬の風物詩

水羊羹（ようかん）は缶やプラスチック容器入りの夏の涼菓として人気がある。お中元の定番商品にもなっている。

だがこれは各家庭に冷蔵庫が普及した40～50年前からの話で、練り羊羹に比べ水分が多く糖分が少ないので日持ちの短い冬の食べ物である。

その中でかつて羽二重織王国の福井県は11月1日～3月末、製造販売が100店を数える〝水羊羹王国〟。暖かいコタツに入って食べるのが風習になっている。

水羊羹はおおむね煮溶かした寒天に小豆餡（あん）を混ぜて固めたものだが、柔らかさ、色、甘さなど店によって微妙に異なる。名称も「水羊羹」「水羊かん」「みずようかん」などさまざま。

共通するのは水分が多く、寒天や砂糖がやや少なめなこと。柔らかく、ひやり、つるり。甘過ぎないのでつい二つ三つと手が出るほどである。

25店ほどある県都の福井市で人気なのは1937年創業の有限会社えがわの「水羊かん」。容器に羊羹を流し込み固めた〝一枚流し〟で、救いやすく切れ目を入れ、木べらを添付してある。

滑らかな舌触りとともにしっとり、ひやり。黒砂糖のさっぱりとした甘さが舌に広がる。甘さ抑えめながらおいしさを感じるのは砂糖、餡、寒天、水分のバランスが絶妙だから。密封容器なので賞味期限が10日、全国発送もしている。

福井で冬に水羊羹を食べるようになった訳には諸説があるが、一つは京都や近江に丁稚（でっち）奉公に出た子らが年末に帰省の時土産に持ち帰ったのが始まりとの説。

また奉公先が丁稚に手土産として持たせた小豆や砂糖で作ったのが起源とも。福井では水羊羹を「でっち羊羹」とも呼ぶのがその証という。

福井県と同じく、水羊羹が冬の風物詩になっているのが栃木県日光市。今では1年中、製造販売の人気商品だが、日光ではおせち料理の口取りの一品として作られたのが始まり。

福井城跡の堀と御廊下橋

その風習が今も生きていて、地元では水羊羹の正式な発売日は11月1日となっている。当日は地元の住民など多の人が押し掛ける。

とくに大みそか前日の12月30日は、どの菓子店にも行列ができ、1日中、客が絶えない。（紀行作家）

【メモ】「水羊かん」＝㈲えがわ（☎0776・22・4952）1箱税込み850円

＝月1回掲載

大正浪漫が薫る宿　別所温泉 旅館花屋

当時の宮大工の美技が施されている「露天風呂付特別室」

日本の古き良き時代に
思いを馳せながら
流れる時間を
ゆっくりと味わう

大正6年（1917）、ここ別所温泉の地に旅館花屋は創業しました。以来100余年、大正時代からの歴史・文化を令和の今日まで大切に守り続けております。1500坪を誇る日本建築の約8割が文化庁登録有形文化財であり、大正文化の特徴でもある和洋折衷の独特な趣が優雅な空間と上質な時間を演出します。

源泉かけ流しの大理石風呂

文化庁登録有形文化財
旅館 花屋
〒386-1431 長野県上田市別所温泉 169
TEL：0268-38-3131　FAX：0268-38-7923
https://www.hanaya.ne.jp

■ 敷地総面積／6500坪（内建坪1500坪）
■ 客室総数32室／最大収容人員100名　貴賓室【桜御殿】／1室・露天風呂付特別室／3室・源泉かけ流し内風呂付離れ／9室・本館客室／16室・洋室スイートルーム／3室

● 源泉かけ流し三種の浴場（大理石風呂・若草風呂・露天風呂）　● 売店　● 食事会場（食堂・ダイニング2カ所）
● 個別お食事会場（椅子・テーブル席）5～10名様　● 喫煙室（全客室禁煙）　● 喫茶室　● 図書室
● 駐車場 乗用車30台　● 全客室 Wi-Fi 完備（食事処は利用不可）